



日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（第7回） 議事概要について

1. 検討会の概要

日時：平成28年9月13日（月） 13：00～15：00

場所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：平田座長代理、今村委員、入倉委員、岡村委員、佐竹委員、谷岡委員、
平川委員、古村委員、松澤委員、三宅委員

2. 議事概要

文部科学省（地震本部事務局）から、地震本部による千島海溝・日本海溝沿いの地震活動についての長期評価方針案に関する話題提供をいただいた。その後、事務局から検討状況の説明を行い、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震について審議を行った。概要は、次のとおり。

- グローバルなモデルを使ってプレートの太平洋プレートの相対運動ベクトルを検討する場合、相手をオホーツクプレートとするか、北米プレートとするかで大きな違いはないかもしれないが、きちんと整理しておく必要がある。
- スラブ内地震は、プレート境界地震よりも強震動が大きくなることが多く、検討対象とする地震に加えるべき。
- 慶長三陸地震については、近年、歴史資料が整理されつつあるので、検討の際の参考として活用すべき。
- アウターライズ地震について、その発生により巨大な地震・津波が発生する可能性があるのであれば、検討対象の地震・津波に加えるべき。
- 千島海溝沿いの最大クラスの地震・津波については、過去数千年の津波堆積物データを説明できる地震・津波を基に検討する。
- 日本海溝の南側で想定する最大クラスの地震・津波については、1677年延宝房総沖地震の検討結果等を基に検討を行う。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当企画官 森本 輝

同参事官補佐 池田 雅也

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-6820